J-CULTURE FEST
にっぽん・和心・物語

TOKYO INTERNATIONAL FORUM

MANYOSHU MEETS MUSICAL

A Breeze in Reiwa

- A YOUNG POET'S TALE -

Performers: Yamamoto Koji, Niiro Shinya, Yumesaki Nene, Onoe Kikunojyo, Ichikawa Somegoro
Produced & Choreographed by: Onoe Kikunojyo
Written by: Tobe Kazuhisa

令和にそよぐ風

万葉集 meets ミュージカル

～若き歌詠みの物語～

新しき　年の初めの　初春の
今日降る雪の　いやしけ吉事

山本耕史
新納慎也
夢咲ねね
尾上菊之丞
市川染五郎

【演出・振付】尾上 菊之丞
【脚　本】戸部 和久
【音楽・ピアノ】大貫 祐一郎
【邦楽アドバイザー】藤舎 貴生
【装束衣裳】井筒企画

令和 Reiwa 2年
2020.1/2 木 THU 16:00 START 15:30 OPEN → 3 金 FRI ❶ 13:00 START / 12:30 OPEN ❷ 17:00 START / 16:30 OPEN

東京国際フォーラム ホールB7
Tokyo International Forum Hall B7

※上演時間80分　※未就学児入場不可
※The show runs for 80minutes.
※Children preschool age and under are not permitted.

J-CULTURE FESTオフィシャルサイト
https://j-cf.jp

主催：東京国際フォーラム　後援：外務省／東京都／東京商工会議所／千代田区／公益財団法人東京観光財団／J-WAVE
企画制作：NHK エンタープライズ　制作：井筒企画／井筒東京／オズエンタテイメント

【問】キョードー東京 0570-550-799（オペレータ受付　平日:11～18時　土日祝:10～18時）

beyond 2020　Tokyo Tokyo FESTIVAL

テーマ曲　令和にそよぐ風

作詞：戸部和久　作編曲：大貫祐一郎

澄み渡る朝冴ゆる空　星は瞬き　天地を照らし行く
光りほころび　和らぐ風　憩う青葉よ　あおによし
たたなづく　人の心をたねとして
よろず言の葉　うたのまほろば
風よよろづ世　吹けよ伝えよ
やまと言の葉　うたのまほろば
恋に震え　愛に涙　君を想い　あなた想い　心瞬き一滴
風に舞いて　川に遊び　海に出でて　仰ぐ高嶺
小さき我は　まことに小さく　仕合せをめぐしうつくし
離れてはまた巡り会う　生きとし生ける瞬く命の一滴
木の葉を揺らせ　心を揺らせ
後の世に　その想いこそ届けと歌う
ささやかな　人の心をたねとして
よろず言の葉　うたのまほろば、
明日へ伝う　風気淑く
令和にそよぐ　うたのまほろば

令和にそよぐ風　引用作品（万葉集監修　池田三枝子）

天皇の御製歌

籠もよ　み籠持ち
掘串もよ　み掘串持ち
この岡に　菜摘ます児
家聞かな　名告らさね
そらみつ　大和の国は
おしなべて　我こそ居れ
しきなべて　我こそ坐せ
我こそは　告らめ
家をも名をも

（巻一・一雄略天皇）

（雄略）天皇のお作りになった歌
籠も、立派な籠を持ち、
掘串も、立派な掘串を持って、
この岡で若菜を摘んでいらっしゃるお嬢さん、
素姓をおっしゃい、名前をおっしゃいな。
（そらみつ）大和の国は、
ことごとく私が君臨しているのだ。
隅々まで私が治めていらっしゃるのだ。
私の方こそ告げよう、
素姓も名前も。

※雄略天皇が若菜摘みをする乙女に求婚するという内容を持つ、めでたい歌。『万葉集』巻一の巻頭歌。
自称敬語（自分に対する尊敬語）が使われ、天皇への敬意が示されているところから、実際に詠んだのは天皇以外の人物であると考えられている。

梅花の歌三十二首序を并せたり（第一首）

正月立ち　春の来らば　かくしこそ　梅を招きつつ　楽しき終へめ

大弐紀卿　（巻五・八一五　紀男人）

【訳】正月になり、春が来たなら、このように梅を賓客として迎えて楽しみの限りを尽くそう。

※「令和」の出典となった、「梅花の歌三十二首」の第一首。観梅の宴の開宴歌で、招待客のうち最も身分の高い大宰大弐（だざいのだいに・大宰府の次官）であった紀男人の開宴の挨拶である。

梅花の歌三十二首序を并せたり（第二首）

梅の花　今咲けるごと　散り過ぎず　我が家の園に　ありこせぬかも

少弐小野大夫　（巻五・八一六　小野老）

【訳】梅の花よ、今咲いているようにいつまでも散らずに、このまま我らの家の庭園にあって欲しいものです。

※第一首に続けて詠まれた、大宰少弐（大宰大弐に次ぐ地位）であった小野老の歌。

大宰少弐小野老朝臣歌一首

あをによし　奈良の都は　咲く花の　匂ふがごとく　今盛りなり

（巻三・三二八　小野老）

【訳】（あをによし）奈良の都・平城京は、満開の花が輝き照り映えるように、今、真っ盛りでした。

※大宰少弐（大宰府の次官の中の№2）であった小野老が、平城京に出張した後に、大宰府に帰り、その帰任の宴席で詠んだ歌。
平城京の繁栄を讃美し、その様を報告する。「匂ふ」は視覚的な美を表現する語であるが、原表記「薫」は嗅覚的美を表すので、視覚的にも嗅覚的にもすばらしい様を詠んでいる。

三年春正月一日に、因幡の国庁にして、饗を国郡の司等に賜ふ宴の歌一首

新しき　年の初めの　初春の　今日降る雪の　いや重け吉事

（巻二十・四五一六　大伴家持）

【訳】新しい年の初めである初春の今日降る雪のように、良いことがいよいよ重なるように。

※天平宝字三年（七五九）、因幡守（因幡国の長官）であった大伴家持が詠んだ歌。
『万葉集』全二十巻の最後に置かれているところから、「万葉終焉歌」と呼ばれている。『万葉集』が万世までも伝わることを願う家持の思いが込められているとされる。

主催：東京国際フォーラム
後援：外務省／東京都／東京商工会議所／千代田区／公益財団法人東京観光財団／J-WAVE
企画制作：NHK エンタープライズ　制作：井筒企画／井筒東京／オズエンタテイメント

J-CULTURE FEST にっぽん・和心・物語　TOKYO INTERNATIONAL FORUM　beyond 2020　Tokyo Tokyo FESTIVAL

新元号「令和」の出典となり関心が高まる『万葉集』を題材に、山本耕史や、市川染五郎をはじめ
ミュージカル、歌舞伎、日本舞踊、宝塚歌劇など気鋭の出演者やスタッフで、令和初のお正月にふさわしい清々しい音楽劇をお届けします。

Taking the theme from the "Manyoshu", which the new era's name "Reiwa" is derived from and has won popularity, we present a musical drama featuring prominent performers including Yamamoto Koji, Ichikawa Somegoro and others from various fields of musical, Kabuki drama, Japanese dance and the Takarazuka Revue, produced by spirited staff. It is the perfect opportunity to spend the first New Year of Reiwa enjoying the refreshing musical drama.

令和にそよぐ風

万葉集 meets ミュージカル

～若き歌詠みの物語～

初春。歌詠みを志す青年がいた。
青年はありのままの心や、ありのままの美しさを詠んだ万葉の歌詠みに心を寄せる。
青年の目には太宰府にほころぶ梅が浮かんだ。
その梅が風に吹かれて舞う中、青年は万葉の世界へと旅に出る。
歌に詠まれた津々浦々、四季折々の万葉集の世界を巡りつつ、
時に額田王のような王朝人に、時には中大兄皇子に、柿本人麻呂に、
そして防人など様々な歌人に出会い、万葉集の世界に触れて行く。

It is the New year. A Young man is wishing to become a poet. He is fascinated with the essence of the ancient book of "Manyoshu (anthology of poetry) ", of which poems express ancient people's feelings and the beauty of nature as they are. The young man gets a glimpse of plum blossoms in an ancient city of Dazaifu and while the plum petals are blown by a breeze, he is taken to the world of Manyoshu. He visits the places and the seasons that appear in Manyoshu and meets noble people like Princess Nukata, Prince Naka-no-Oe, Kakinomoto-no-Hitomaro and Sakimori soldiers and others, and he explores the world of Manyoshu.

中大兄皇子
新納 慎也
NIIRO SHINYA

舞台では、三谷幸喜・森新太郎・宮田慶子・宮本亜門作品に数多く参加している。NHK大河ドラマ『真田丸』豊臣秀次役では、劇中での死後「秀次ロス」現象を巻き起こす。舞台の世界で培った演技力をドラマ・映画にも活躍を広げている注目の俳優。近年の舞台では、『BENT』『スルース探偵～』『PARADE』『パジャマゲーム』『next to normal』『ラ・カージュ・オ・フォール』『生きる』『日本の歴史』『hymns』『Gutenberg!』。
3月には『十二夜』の公演が控えている。

額田王
夢咲 ねね
YUMESAKI NENE

2003年宝塚歌劇団に入団。09年星組トップ娘役に就任。出演作に『ロミオとジュリエット』『オーシャンズ11』『第二章』などがある。2015年5月に宝塚歌劇団を退団し、同年7月には『サンセット大通り』（鈴木裕美演出）に抜擢。シェーファー役を好演。以降、『1789 -バスティーユの恋人たち-』のオランプ役や『グレート・ギャツビー』のデイジー役（小池修一郎演出）、『笑う男 The Eternal Love -永遠の愛-』のデア役（上田一豪演出）と各ヒロインを務める。他に『ビッグ・フィッシュ』（白井晃演出）のジョセフィーン役など。本年4～5月にはブロードウェイ・ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』Season3にアニータ役で出演予定。

大海人皇子
山本 耕史
YAMAMOTO KOJI

日本初演の「レ・ミゼラブル」（ガブローシュ役）で舞台デビュー。以降、数多くのミュージカル・話題のドラマ・映画で実力派俳優として幅広く活躍。2010年の「GODSPELL」では演出も手がけた。またソロ、山口智充・佐野元春との＜The Whey hey hey Brothers＞で音楽活動も行っている。
最近の舞台出演：『オーシャンズ11』『メンフィス』『嵐が丘』『マハゴニー市の興亡』『鶴瞼城の七人』『ざ・びぎにんぐ・おぶ・らぶ』
＜今後の予定＞舞台：『アナスタシア』『大地』、ドラマ：『恋はつづくよどこまでも』『ドラマ25絶メシロード』『貴族誕生-PRINCE OF LEGENAD-』、映画：『エキストロ』（3月13日公開予定）『シン・ウルトラマン』（2021年公開予定）

歌詠みの青年
市川 染五郎
ICHIKAWA SOMEGORO

2007年6月歌舞伎座『侠客春雨傘』高麗屋齋吉役で本名の藤間齋として初お目見得。2009年6月歌舞伎座『門出祝寿連獅子』童のちに孫獅子の精役で四代目松本金太郎を名乗り初舞台を踏む。2018年1月歌舞伎座『勧進帳』源義経役他で八代目市川染五郎を襲名。近年の出演作は、『仮名手本忠臣蔵　七段目』大星力弥、『連獅子』狂言師左近後に仔獅子の精、『龍虎』虎、『大石最後の一日』綱利長男内記利章、『東海道中膝栗毛』伊月梵太郎、三谷歌舞伎『月光露針路日本』磯吉など。婦人画報に『八代目市川染五郎のしばい絵日記』を連載中。父に十代目松本幸四郎、祖父は二代目松本白鸚。

山部赤人
尾上 菊之丞
ONOE KIKUNOJYO

舞踊家。
尾上流四代目家元。平成23年（2011年）、尾上流家元を継承し三代目尾上菊之丞を襲名。流儀の舞踊会などを主催すると共に、一流の芸能者との作品創りにも力を注いでいる。花街舞踊、先斗町『鴨川をどり』、新橋『東をどり』の振付。宝塚や万博ほか、十代松本幸四郎主演のラスベガス歌舞伎公演、フィギュアスケートとのコラボによる新作歌舞伎『氷艶 破沙羅』や、四代目市川猿之助主演のスーパー歌舞伎Ⅱ『ワンピース』等、幅広い分野で振付・演出を手掛けている。

スタッフ

日本舞踊

藤間 京之助
FUJIMA KYONOSUKE

花柳 喜衛文華
HANAYANAGI KIEAYAKA

邦楽

藤舎 貴生
TOUSHA KISHO
＜長唄・横笛＞

＜箏＞ 高畠 一郎
＜和太鼓＞ 吉井 盛悟

演奏

＜キーボード＞ 堀 倉彰
＜ベース＞ 村上 聖
＜フルート&EWI＞ 坂上 領

東京出身。7歳からピアノを始め、三澤慶子氏、深井克則氏に師事。洗足学園大学音楽学部ピアノ科卒業。在学中にNHK公開生放送、NHKホールにて前川清、田代ユリらと共演。卒業後もペギー葉山、菅原洋一、雪村いづみ、天童よしみ、五木ひろし、クミコら多数のアーティストと共演している。シャンソン、ジャズ、ポップス、演歌と様々なジャンルで音楽監督や編曲を担当し、スタジオワークやライブ、大型コンサートにもピアニストとして参加。近年では井上芳雄との共演をきっかけにミュージカルや舞台、さらにテレビ、ラジオにも活躍の場を拡げている。TBSラジオ『井上芳雄 by MYSELF』、WOWOW『グリーン&ブラックス』にレギュラー出演中。

大貫 祐一郎
ONUKI YUICHIRO
＜ピアノ＞

演出・振付：尾上 菊之丞
脚本：戸部 和久
音楽・ピアノ：大貫 祐一郎
邦楽アドバイザー：藤舎 貴生
装束衣裳：井筒企画
美術：松野 潤
照明：北窓崎 崚
音響：黒崎 雅宏
像：本多 孝成
演出助手：玉置 千砂子
映像：杉村 向陽
舞台監督補：高橋 信濃
照明技術：土井 怜香
映像技術：千葉 貴幸
ヘアメイク：松原 志津枝
AKANE
両角 慎子
堀井 香苗
スタイリスト：落 里美
装束着付：兵庫 幹子
森本 智子
岡崎 忍
中野 広子
森川 慶子
谷輪 冨美
舞台設営：シミズオクト
技術協力：PAC
大道具：俳優座
照明：クリエイティブ・アート・スィンク
映像：池田屋
床山：大澤
小道具：藤浪小道具
衣裳協力：東宝舞台
万葉集監修：池田 三枝子
音楽制作協力：原田 正彦
音楽器：和田 淳
稽古ピアノ：山口 敦
宣伝美術：伊藤 祥子
宣伝写真：森田 悠介
舞台写真：宮川 舞子
宣伝：葛西 亜理沙
阿部 章仁
林 三代子（る・ひまわり）
宇津宮 明美（る・ひまわり）
スーパーバイザー：平栗 敬紫
制作デスク：井筒 周
制作助手：朽木 未来
制作：藤田 里紗
プロデュース：鈴木 奈緒子
制作統括：松山 正明
チケット：山本 信之
運営：キョード東京
事務局：協栄
アーティストマネジメント：デスクプラス
協力：ワイツー・カンパニー
Koma
ワタナベエンターテインメント
オスカー・プロモーション
尾上流事務所
グランアーツ
企画：風俗博物館
学校法人実践女子学園
矢島 聡子
井筒 與兵衛